

# 5 下水道の整備効果

下水道を整備することによって、トイレの水洗化が図られるなど住宅周辺環境の改善や、公共用水域である河川などの水質も改善されてきています。

例えば、鈴鹿市の金沢川においては、下水道普及率が平成7年度末の9.3%から平成29年度末の56.4%に拡大したことともない、河川における有機汚濁の代表的な指標である生物化学的酸素要求量(BOD)が8.1から環境基準値の5.0以下である3.9に改善されています。

また、伊勢湾などの閉鎖性水域では、富栄養化の原因物質である窒素、磷を除去できる高度処理を積極的に推進しています。

